

望月海慧身延山大学副学長が 「令和元年度 坂本日深学術賞」を受賞

第72回日蓮宗教学研究発表大会懇親会において行われました「令和元年 各種授賞式」において望月海慧先生(身延山大学教授・副学長)が「坂本日深学術賞」を受賞されました。

受賞にあたり、安田治樹立正大学法華経文化研究所長より「坂本日深学術賞は坂本日深(幸男)第17代立正大学学長の基金を基として創設された賞で、広く仏教に関する研究に対して与えられるもの」との坂本日深賞に関する説明があり、あわせて今回の望月海慧先生の受賞対象業績は「チベット語訳『妙法蓮華註』和訳(全訳)および『妙法蓮華経玄賛』との比較研究を中心とする一連の文献学的研究」(自平成25年3月至平成31年3月)であるとの報告が立正大学法華経文化研究所の戸田祐久先生(立正大学教授)より受賞理由と共に報告がなされました。



〔授賞理由抜粋〕

西藏(チベット)大蔵経の丹殊爾(テンギユル, タンジユル)すなわち論疏部の経疏部中に、法華経の経疏として、Dam pa'i chos punḍa rika'i 'grel pa(『妙法蓮華註』もしくは『正法白蓮華経註』)なる註釈書が収録されている。この書が唐代法相宗の開祖たる慈恩大師基(632-682)の撰述による『妙法蓮華経玄賛』(略して『法華玄賛』)二十巻中、前半「見宝塔品」途中までのチベット語訳であり、またそれが逐語的翻訳ではなく取意的抄訳であることは、先行研究において概略的あるいは部分的に明らかにされている(渡辺瑞巖 1938年、山口益 1970年、中村瑞隆 1972年、遠藤充久 1984年、則武海源 2003年、等)。しかるに、当該チベット語訳『妙法蓮華註』のテキスト全体の翻訳研究、およびその原典『妙法蓮華経玄賛』との詳細な比較研究は、その重要性が指摘されながらも未着手の状況が続いていた。そこに、本格的な文献学的研究プロジェクトを立ち上げたのが本年度の受賞対象者である。身延山大学東洋文化研究所(現・身延山大学国際日蓮学研究所)法華経研究班において、受賞対象者の望月海慧教授主導の下、チベット語訳当該文献の日本語への翻訳作業と共に、研究協力者として金炳坤身延山大学准教授を得て『妙法蓮華経玄賛』との比較対照が推進され、その研究成果は、各品ごとに平成25年10月より『法華文化研究』『身延山大学仏教学部紀要』『身延論叢』『身延山大学東洋文化研究所報』『日蓮仏教研究』等の学術雑誌等において、連作論文として順次公表され、平成31年3月ついに全訳が果たされ、当該研究は一応の完成を見た。その間、平成28(2016)、29(2017)、30(2018)年度には研究課題「内陸アジアにおける法華経の展開」研究種目「基盤研究(C)」として、科学研究費補助金助成を獲得している。このような研究およびその成果公表の状況は、坂本日深学術賞規定の第三条「本賞は前学年度において学術雑誌に発表された論文及び著書にして、法華経教学の学的発表に寄与したと認められるものを受賞対象とする。」を十分充足するものと判ぜられる。